

あし

ハイキングクラブ



ちんぐるま

第339号

2018年1月11日発行

先月の山行

- ☆ 12月3日(日) 大谷山 山行報告参照
- ☆ 10日(日) 鶏冠山&竜王岳 山行報告参照
- ☆ 17日(日) 鬼が岳 山行報告参照

1月の予定

- ☆ 2日(火) 日野山
- 11日(木) 例会
- ☆ 14日(日)
- 6:00カネキ運輸 CL
- ☆ 28日(日)
- 7:00 雪建(春日町) CL

2月の予定

- ★ 8日(木) 例会
- ☆ 11日(日)
- ☆ 25日(日)

冬季は積雪を考慮し決定します。

遭難対策基金 1000円 年会費 6000円
会計までお願い致します。

山行申込み方法

・例会時に未定であったり、山行申込済で都合によりいけなくなった場合は、前々日夜までに山行リーダーへ直接連絡してください

山の予定は天候に左右されます。より hot な情報は

<https://asihiking2.jimdo.com/山行計画-1>

検索し再確認して下さい。

山行計画書を提出して下さい

クラブ山行の場合はリーダーが、個人山行の場合はそれぞれで山行前日迄に宮本会長まで。

〔山行報告〕

高島トレイル 寒風から大谷山・石庭を経て

紅葉のメタセコイア

日時 2017年12月3日



今日は最高の山行日和になりました。真っ青な空、風もなく気持ちのいい天候です。今日はマキノ高原から寒風の登り、大谷山で昼食、石庭に下りて紅葉のメタセコイアの並木を通り、マキノ高原に戻る周回コースです。

7時30分頃マキノ町に入ると霧がかかっている。天気の良い証拠だ！その通りマキノ高原に着くと真っ青な青空です。支度を整え、出発です。マキノ高原のファミリーゲレンデの横の道を進む。大谷山登山口と寒風まで4.3kmの表示版がある。スキー場のゲレンデを登っていく。スキー場のゲレンデを登るのはどこのスキー場も一緒だ。息が上がる。登り切り振り返るとマキノ町はまだ霧に包まれている。風がないので霧が留まっている。綺麗な光景です。ようやく登山道になってきた。九折に登っていく。途中休憩する場所がある。展望がいい。遠くに伊吹山、手前に琵琶湖、下を見るとマキノ高原が見える。再度出発です。登山道脇に雪が出てきた。やがて登山道にも雪が積もっている。積雪は何cmもない。雪を踏むと土が出て来る程

金勝アルプス

日 時 2017年12月10日

度の積雪です。高度が上がり、木々がなくなった。真っ青な空に近づいた気がする。遠くに目をやると、真っ白の山が見えた。白山だ！白山が見えると感動を覚えるのは何故だろう？反対に目をやると琵琶湖の湖岸線が綺麗に見える。寒風に登る登山道は真っ白になっている。頂上に着くと一面積雪です。5cmくらいでしょうか、大した積雪ではありません。眺望は先程よりよく見える。大谷山に向かう。一旦下り、また登り直す。寒風から下る時、大谷山の登山道が白い登山道と化している。初冬ならではの光景でしょうか。頂上には誰か人がいる。頂上手前でその人とすれ違った。何と半袖です。それくら暖かな日になっています。大谷山頂上で昼食です。先週と同様に野菜なべです。違いはうどんでは無く今日はラーメンでした。大変美味しくまた腹一杯いただきました。下山開始です。石庭に向かって下りていきます。下りは早い。撮影が追いつかない。すぐに下山した感じです。石庭の田舎道を歩いていると、ナベツルがいた。6日の福井新聞に絶滅危惧種のナベツルが記事になっていた。撮影したが小さくしか写っていない。残念でした。

メタセコイアの並木道に出ると大渋滞です。メタセコイアの紅葉が黄色から橙色に変わりつつある。真っ直ぐ伸びる県道を両脇からおい被せ先が見えなくなるくらい続いている。圧巻の見応えでした。今回は天気にも恵まれ、念願のメタセコイアの紅葉を見れたのは最高でした。

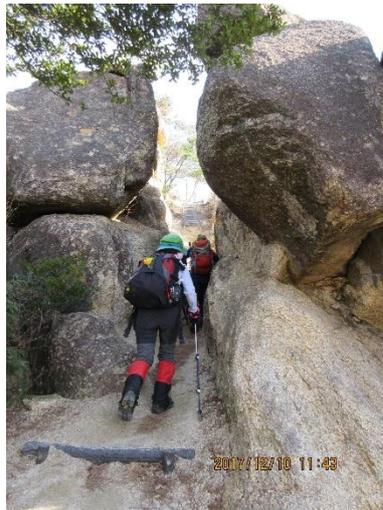
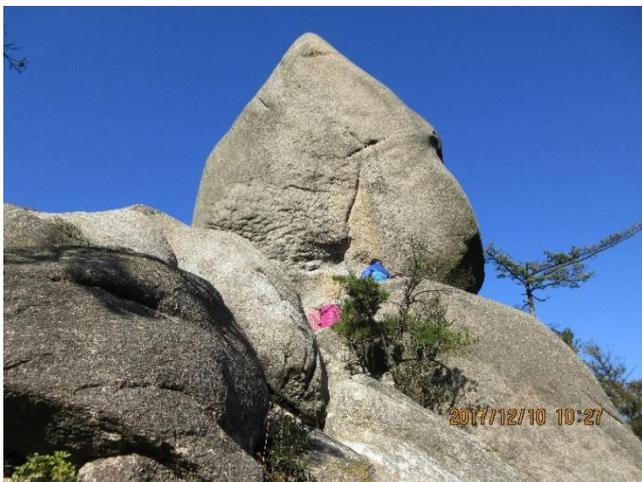


マキノメタセコイア並木通り



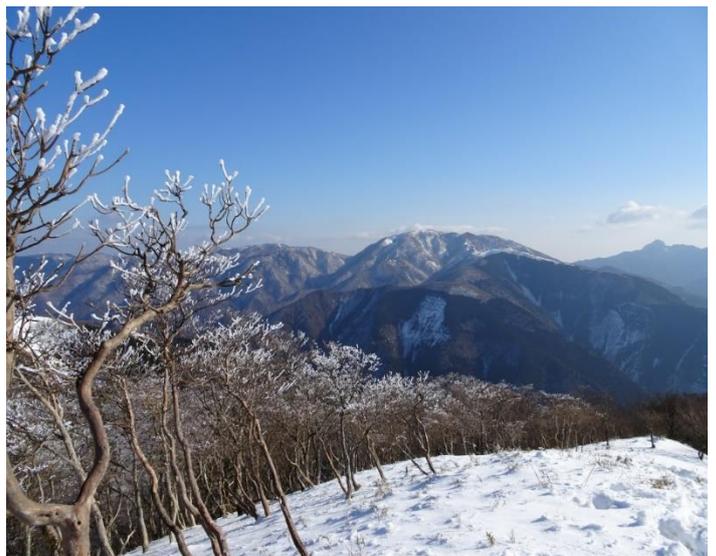
先週に引き続き今日も快晴です。久しぶりの金勝アルプスです。会の皆さんは初めてだそうです。久しぶりなので駐車場までの道を少し間違えてしまった。でも山行計画前の時間に出発できました。今日のルートは落ヶ滝を見て、鶏冠山に登り、天狗岩で昼食、耳岩に登り、龍王山で折り返し、狛坂に下り、駐車場に戻る周回コースです。駐車場に着くと管理事務所は12月から閉鎖していた。駐車代は無料です。支度を整えて出発です。林道を歩く。分岐で落ヶ滝方向に進む。森を抜けるとちらっと天狗岩が見える。小川の流れる横の登山道を登っていく。やがて、たまみずきの歩道にでる。歩道を横切り真っ直ぐ登っていく。小川を何回か渡ると大きなシダの群生です。落ヶ滝の分岐に着く。団体が滝に向かう順番待ちをしていた。その横を通り過ぎ滝に向かう。落ヶ滝に着く。滝の水量が少ない。チョロチョロと落ちている。春先に来ないと迫力ある滝にはならないようだ！友清さん、下村さん、岩本さんの3人が滝の岩に登りにいった。後続の団体がやって来たので登山道に戻ることにした。徐々に登り坂になる。途中小さい岩がある。岩の上に登れば琵琶湖を望むことができるので、下村さんが岩に登った、しかも先の岩まで行ってしまった。急登の坂を登り終えると前が開け、琵琶湖が一望できた。大きな1枚岩に登り、さらに滑りそうな岩も登ると鶏冠山との分岐にでる。鶏冠山に向かう。しばらく急登が続きます。登り終え少し下ると眺望のいい場所がある。目の前に三上山、遠くに伊吹山、霊仙山も見える。頂上に着くと総勢40名の同じ労山会の団体が頂上を埋め尽くしていた。早々に引き上げる。分岐に戻り、天狗岩への尾根を歩く。樹林を抜けると針山のような場所にてた。眺望が素晴らしい。前に琵琶湖、比良山系、後ろに伊吹

山霊仙山、鈴鹿山脈が見える。さらに登っていくと自然が作った石門がある。この石門の上に登ることができる。また3人がその岩に登りに行く。友清さんが新たに眺望に良い岩を見つけた。皆がその岩に登る。友清さんが言う通り、さっきの岩場より眺望が良い。さらに進んで行くと天狗岩が良く見える場所にてた。天狗岩の上に一人いるのが見えた。天狗岩に着く。リックを置いて天狗岩に登る。登っていくといつも昼食をするベンチの岩場で食事をするグループがいた。岩と岩との隙間を登っていく。天狗岩に登ることができる、岩を削った階段を登る。登ると平で3畳位の広さがある。ここで集合写真を撮る。ここからの眺望は360度の展望です。天気にも恵まれ最高の眺望になりました。隣の岩場に行っていると、いつの間にか誰もいない。天狗岩を下りて行く。登山道の少し広い場所で昼食です。今日は清家さんのリクエストに応え、何と焼肉です。山で焼肉を食べれるとは、大変美味しくいただきました。耳岩に向かう。巨石が2個そびえ立っている。狭い岩の隙間に皆が登ろとするので渋滞です。一人ずつ耳岩に立つ。皆、岩の上に立つのが好きなんですね。龍王山に向かう。白石峰の分岐で案内板を見ていたら、友清さんが龍王山を越え馬頭観音堂まで行って来ると行って、走って行ってしまった。龍王山に着く。眺望は三上山が見えるだけでした。分岐まで戻ると、友清さんも戻ってきた。物足りない山だったのでしょいか、大したものです。狛坂ルートで下る。重ね岩、狛坂磨崖仏を通り林道にでる。逆さ観音、オランダ堰堤を通り駐車場に戻る。金勝アルプスは見所満載の山でした。さらに、恒例の温泉は比良の温泉にしましたので、京都経由で行きます。京都と聞いて皆驚いていました。結果今日は琵琶湖一周のドライブになりました。以上



わたむき
綿向山 (1110m)

日時 2017年12月23日(土)



綿向山頂上より雨乞岳と鎌ヶ岳(右)を望む

今日は樹氷で有名な滋賀県の綿向山へ個人山行です。いつものように小泉さんの“小泉ナビ”で、八日市IC経由御幸橋駐車場へ。駐車場はすでに満杯状態、さすが関西の人気山です。今日は快晴、暖くなる前に登らないと樹氷が消えてしまいます。AM8時出発。林道のアスファルトが凍っています。ヒミズ谷出合小屋からつづら折りの植林された杉林を進みます。5合目小屋で綿向山の常連さんより薦められ、アイゼンを装着します。でも伊部さんはアイゼンなしで進みます。7合目からは冬道の直登、汗が流れます。前方に歯ブラシ状のエビの尻尾が樹木に生えています。青空に樹氷の花が咲いています。暗雲な北陸とは違い素晴らし

いい日です。頂上に立つと目の前に雨乞岳、右手にこもり盛り上がった鎌ヶ岳が見えます。スペースを作ってシェフ伴藤さんの鍋料理です。幸せな気分になりました。北尾根に立ち寄り展望を楽しみました。上り 2 時間 10 分、下り 1 時間半の山行でした。



鬼ヶ岳 (533m) ~ 奥鬼ヶ岳 (465m) ~ 蛇ヶ岳 (418m)

周回コース

日時 2017 年 12 月 24 日 (日)



蛇ヶ岳にて

今日は先週悪天候で順延となった鬼ヶ岳から蛇ヶ岳への右回りの周回コースです。このコースは今年の春に完成した新コースで、今日の参加者は全員初めてのこのことです。

まず鬼ヶ岳への登り、大越さんが長い足でぐいぐい進み、頂上到達です。頂上は積雪 50 cm くらい。眺望よ

く敦賀半島の西方ヶ岳、栄螺岳が見えます。一息入れた後奥鬼ヶ岳分岐まで 10 分、案内板に従って進むと急斜面の下りの始まりです。先頭は長靴の友清さん、ぐいぐい皆を引っ張ります。鞍部を過ぎ今度は登りです。30 分ほどで奥鬼ヶ岳頂上、展望はあまり良くありません。先に進むとアップダウンの繰り返し。右手に西鬼ヶ岳、前方に蛇ヶ岳が見えます。さらに進むと林道に出ます。5 分ほどで再び山道へ。最後は息が切れるほどきつい上りが待っていました。蛇ヶ岳頂上でスペースを作り、鍋パーティーです。今日はシェフ伴藤さんがいません。でも小柏さんがいました。野菜入り水餃子の鍋、ご馳走様でした。帰りは大虫滝からカントリー登山口へ、約 5 時間半の山行でした。

「編集後記」

山の中腹

山登りはよく人生に例えられる。「登山の目標は山頂、しかし人生の楽しさ生命の息吹は山頂ではなく山の中腹にあるとっていい」作家吉川英治

目標へ向け険しい山道を進む、苦しい過程こそが醍醐味なんですよね。明けましておめでとうございませす。今年度も宜しくお願い致します。

日本勤労者山岳連盟発行「登山時報」では、労山会員の皆さんからの投稿写真を募集しています。

登山時報投稿写真係 <mailto:tozanjiho@jwaf.jp>